

令和8年度新潟県バスケットボール選手権大会
兼 第102回天皇杯・第93回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会 新潟県代表決定戦
女子決勝

新潟医療福祉大

55 $\left(\begin{array}{ccc} 20 & - & 8 \\ 8 & - & 11 \\ 11 & - & 6 \\ 16 & - & 24 \end{array} \right)$ 49

新潟青陵大学

テーブルスコア

A	新潟医療福祉大		得点	野投(本)		自由投 (本)	反則
	S	No		3点	2点		
*	4	嶋田 菜那	6	2	0	0	1
	7	中野 璃愛	2	0	1	0	1
	8	杉内 李緒	5	1	1	0	5
*	9	大井 暖々	8	0	4	0	2
	10	佐藤 愛	3	0	0	3	1
*	12	山田 杏美	14	1	4	3	2
	13	大野 萌絵	0	0	0	0	0
*	14	郷六 柚葉	4	0	1	2	2
	22	佐藤 涼音					
	25	出見世 夏光					
	27	菊池 結羽					
	29	山西 凜愛	4	0	1	2	0
	32	宮住 咲希					
*	33	廣野 智依菜	9	0	4	1	0
	77	千田 穂					
	83	相馬 珠里	0	0	0	0	1
合 計			55	4	16	11	15

B	新潟青陵大学		得点	野投(本)		自由投 (本)	反則
	S	No		3点	2点		
*	4	中村 妃奈	13	0	4	5	3
	6	坂本 陽向					
*	7	田巻 朱萌	7	0	3	1	2
	8	川崎 天歌	0	0	0	0	0
	9	小川 紗英	7	0	3	1	2
	11	浅野 稟乃	0	0	0	0	1
	12	小林 由奈	0	0	0	0	0
	13	仲川 楓生	7	2	0	1	0
	15	阿部 綾乃					
*	16	川崎 小珠	6	0	3	0	4
*	17	菊池 咲輝	0	0	0	0	0
	18	平井 玲奈	0	0	0	0	0
	19	田中 愛来	2	0	1	0	2
	20	中井 あげは	0	0	0	0	1
*	22	田中 愛実	7	1	2	0	1
	23	横井 奏愛	0				
合 計			49	3	16	8	16

戦 評

女子決勝は、3連覇のかかる新潟医療福祉大(以下、医福大)対 昨年のリベンジを狙う新潟青陵大学(以下、青陵大)の因縁の対戦。

1Q、両チームオールコートマンツーマンでスタート。最初にゲームを動かしたのは青陵大の#22田中。その後も青陵大キャプテンの#7田巻がレイアップを決め、青陵大が連続得点する。しかしここから医福大が反撃を開始。医福大#33廣瀬が難しい姿勢からシュットを決めると、その後も要所で速攻を確実に決める。さらに医福大#12山田の3Pシュートが決まり、一気に得点を重ねた。1Qは医福大が優位にゲームを進め、12点のリードで20-8となった。

2Q、医福大はキャプテンの#7中野と#12山田のコンビネーションで得点するも、その後は青陵大の厳しいディフェンスに苦戦。ボールを奪って速攻を狙う青陵大を止めようとするが、ファウルがかさんでしまう。これを機に追い上げを図る青陵大は、#16川崎がスティールから速攻を仕掛け、最後は冷静にジャンプシュットを決める。青陵大が流れを掴んだものの、医福大9点リードの28-19で前半を折り返した。

3Q、医福大が一気に青陵大を突き放しにかかる。医福大は丁寧なパス回しから#4嶋田が3Pシュートを決め、#9大井もゴール下で強さを見せた。対する青陵大も、#4中村が果敢なドライブから連続得点して食らいつく。その後は互いにオールコートで積極的なディフェンスを仕掛け、両者得点が止まる展開に。医福大の14点リード、39-25で最終クォーターへ進む。

4Q、青陵大は積極的にゴールを狙い、#19田中愛来や#22田中愛実の連続得点で点差を1桁に縮めていく。医福大は点数が伸びず苦しい時間が続くが、タイムアウト明けに#12山田が3Pシュートを決めて勢いを取り戻す。その後もリバウンドやルーズボールで強さを見せた医福大。一方、流れを取り戻したい青陵大も#4中村が力強いドライブから得点し、両者一進一退の攻防が続く。一層ハードなディフェンスで追い上げを図る青陵大だったが、その反面ファウルがかさむ。対する医福大は#33廣瀬が巧みなハンドリングから華麗なステップインで得点し、流れを譲らない。青陵大はファウルゲームに持ち込み積極的に3Pシュートを狙うも、あと一歩届かなかった。

女子決勝戦は最終スコア63-50で新潟医療福祉大学が勝利を収め、大会3連覇を果たした。

(記載責任者: 桐生 雅彦)